



【三谷 昇】(1932年7月～2023年1月15日)

広島県出身。文学座に裏方として入団後、俳優として活動。劇団雲を経て、演劇集団円に参加した。主に脇役として活躍し、個性的な風貌や存在感で「怪優」とも呼ばれた。映画では黒澤明監督「どですかでん」、伊丹十三監督「マルサの女2」「ミンボーの女」、佐藤純弥監督「おろしや国酔夢譚」等に出演。舞台は別役実の不条理劇「メリーさんの羊」など数多くの作品に出演した。

【無題「いつのことだか」全文】

いつの ことだか どの ことだか わかりませんが ひろい ひろい はらが ありました。その はらの まんなかに いっぱんの 木が はえて いました。この ひろい はらが すぎて いく たびびとたちは この 木の下で 馬から おりて しばらく やすんで いくので ありました。

ある 日 北の 方から やって きた 人が この 木の下に 家を たてて まんじゅうを 売りはじめました。木の下で 休む たびびとたちは むしたての まんじゅうを 買って じぶんも たべ 馬にも たべさせたりしました。

その うちに、まんじゅうやの となりに たびびとを とめる やどやが できました。それから こんどは、馬のかなぐつを つくる かじやが できました。まもなく かじやの となりに 酒やが できました。ランプやが できました。油やが できました。ごふくや、靴や、おかしや、おもちゃやが できました。それから 家は どんどん ふえていきました。

こどもたちは 町の まんなかの 木の まわりで かくれんぼや おにごっこを して あそびました。

【紙芝居「いつのことだか どのことだか」から／作画 三谷昇】

